

90. <そぞろ歩きしながら思うこと>

ここ最近のほぼ唯一の趣味は、散歩です。散歩の際には、ついつい河川などの水辺に目が行きます。水辺を見て心の安らぎを得ながら、水の色、濁りなどで水辺の清澄具合を目算しています。雨上がりの河川において目に付くには、水面上の浮遊物です。ペットボトル、ビニール袋、オイルボール等の浮遊物が、河川的美観を大いに損ねている印象がします。

これら浮遊物の多くは、心無い人だけでなく、ごく普通の市井の人による廃棄に起因しているのではないのでしょうか？ 道すがらペットボトルのお茶を飲み、飲み終わるとレジ袋もペットボトルも道端へ何気なく捨てる、こんな風景を見かけませんか？ また、調理で残った油をどこかの排水溝に流す誘惑に駆られたことはありませんか？

ところで、家族と住んでいる自宅は、大規模集合団地です。住み始めた時に驚いたのが、ゴミ出しのルーズさです。住民同士の繋がりが希薄であり、ルーズな人を注意する雰囲気が無いことが原因と邪推しています。でも本当は、注意されなくても「お天道様が見ている」はずですが・・・。

一人ひとりが当たり前のルールを遵守すれば、行政がお金を掛けなくても、河川に漂流している浮遊物の内のペットボトル、ビニール袋類の多くは、一掃できるはずですが。当然、人を律することは甚だしく困難なことでありますし、目に見える効果をソフト事業で得る道よりは生易しくはありません。

それでも、人の健全な良心や力を信じたいものです。是非、雨天時越流水処理の導入や雨水柵清掃などのハード事業に加えて、啓蒙や啓発の活動、注意する勇気の喚起などのソフト事業の推進によって大多数となりえた良識ある人々の生活、協力、理解に支えられた良好な水辺環境の実現を今日も夢見ています。

<総括主任研究員 佐野勝実>

※ J S 技術開発情報メール No. 98 号 (2010/1/8) に掲載